

Q39

むくみがでたら どうしたらいいですか？

朝起床時の顔や長く歩いた時の足など、「むくみ」は日常生活で経験するものです。当然、これらの「むくみ」は抗がん剤治療中でもみられます。ここでは、抗がん剤治療や癌の治療のときにみられて、日常生活で経験する程度ではない病的な「むくみ」の話です。

1) 病的な「むくみ」

明らかに体重増加を伴う程の「むくみ」の事で、キロ単位の増加がみられます。従って、治療中は定期的な体重の測定が大事になります。日常的な「むくみ」と同様に、足、すね、手指、顔などが最初にむくみやすい部分ですが、重度になれば、背部や臀部等にもみられ、時には、胸水や腹水の伴う場合もあります。手や足の病的なむくみは基本的には両側性ですが、片側に強く現れる場合もあります。

2) 「むくみ」が疑われたら

まずは担当の医師・看護師・薬剤師に相談してください。さらに、体重を計って記録してください。また、下肢や腕のむくみが疑われたら、場所を決めて（例えば膝上端/下端から10cmの部位）周径を計測する事をおすすめします。

3) 「むくみ」の原因

いろいろな原因で「むくみ」が生じます。1つの原因だけではなく、色々な原因が複合的に関与している場合もあります。

(1) 抗がん剤の副作用としての「むくみ」

薬剤そのものの副作用で「むくみ」が生じる場合があります。薬剤には、ドセタキセル（商品名タキソテール）、イマチニブ（商品名グリベック）、プレドニゾン等があります。

(2) 内臓異常に伴う「むくみ」

治療の副作用や原疾患の影響で、心臓、腎臓、肝臓等の内臓機能が低下した場合、「むくみ」が生じる場合があります。当然、治療の開始前には、これらの主要な臓器に重篤な異常が無い事は確認されています。治療中も採血・レントゲン等で定期的に臓器障害の有無の検査が行われていますが、必要な時は、より精密な検査が行われます。

4) 手や足だけのむくみ、「リンパ浮腫」

婦人科癌や乳癌の手術や放射線治療後に腕や下肢に「むくみ」がみられる場合があります。これを、「リンパ浮腫」と言います。「リンパ浮腫」は、時に日常生活に支障を来すことがあるため予防が大事です。予防の基本は、スキンケアで、「お顔」と同じように手や足の「お肌」の管理が大切です。

熊本大学附属病院の婦人科では、下肢のリンパ浮腫の予防や治療に積極的に取り組んでいます。外来や病棟には、リンパ浮腫に関するビデオや書籍・パンフレットをそろえ、要望があれば個別の指導も行っています。気になる「むくみ」が生じた方は、担当の医師・看護師にお気軽にご相談下さい。（齋藤文誉）